

平成30年3月14日  
成瀬ダム工事事務所

## 第2回 成瀬ダムモニタリング委員会 審議結果について

成瀬ダム建設事業は、平成11年5月に閣議アセスに基づく環境影響評価書が公告・縦覧され、一連の環境影響評価手続きが終了しています。

成瀬ダム建設事業の実施においては、平成11年から施行された環境影響評価法や最新の知見等を踏まえ、環境への配慮が必要な事項について、環境の個別分野ごとに専門家の指導・助言を得ながら、成瀬ダム周辺環境の現地調査を継続し、環境保全の検討を行うとともに、既にその一部は対策を実施してきました。

今後予定しているダム建設工事中の環境保全措置等を適切に実施していくため、工事中の環境モニタリングについて、専門家から指導・助言を得る「成瀬ダムモニタリング委員会」を平成29年3月6日に設立しました。

今回の第2回委員会では、平成29年度モニタリング調査結果及び平成30年度モニタリング調査計画について審議しました。

■開催日時：平成30年3月14日（水）14：00～16：00

■場 所：ホテルメトロポリタン秋田 4階 ルーチェ

成瀬ダムモニタリング委員会 委員名簿

専 門	氏 名	所 属	役 職
水工学	(委員長) 松富 英夫	秋田大学大学院理工学研究科	教授
底生動物	青谷 晃吉	大仙市教育委員会教育指導部 教育指導課	教育アドバイザー
植物	井上 正鉄	秋田大学	名誉教授
哺乳類・鳥類、両生 類・爬虫類	小笠原 嵩	秋田大学	名誉教授
陸上昆虫類	佐々木 明夫	日本鱗翅学会	会員
魚類	杉山 秀樹	NPO法人秋田水生生物保全協会	理事長
水環境	野池 達也	東北大学	名誉教授

敬称略、50音順

## 第2回 成瀬ダムモニタリング委員会

平成30年 3月 14日(水)

ホテルメトロポリタン秋田

4Fルーチェ 14:00～16:00

### 次 第

○ 開 会

○ 挨拶 成瀬ダム工事事務所長  
松富委員長

○ 議 事

1. 成瀬ダム事業概要
2. 第1回委員会でのご意見に対する対応
3. 平成29年度のモニタリング調査結果
4. 平成30年度のモニタリング調査計画

○ 閉 会

## 第2回 成瀬ダムモニタリング委員会の審議結果（要旨）

### 1. 平成29年度のモニタリング調査結果について

- 平成29年度のモニタリング調査結果について審議した。

#### ① 水質調査（別紙－1参照）

##### <調査概要>

- 平成4年度より調査を継続実施している。
- 調査項目は、一般項目（水温、濁度）、生活環境項目（pH、BOD、SSなど9項目）、富栄養化項目（全リン、全窒素）健康項目（カドミウム、シアンなど24項目）を調査。

##### <調査結果>

- 平成29年度の調査結果は、例年同様、概ね環境基準値内であった。

##### 【審議結果】

- 成瀬ダム建設工事に伴う影響はほとんど無いと考えられる。
- 工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を継続するものとする。

#### ② クマゲラ調査（別紙－2参照）

##### <調査概要>

- 平成5年度より、クマゲラの生息の有無と、クマゲラが生息している場合の生息範囲を確認するための調査を継続実施している。

##### <調査結果>

- 平成29年度の調査結果は、新たに6箇所のカマゲラのものと推察される痕跡（巣穴等）を確認したが、個体の確認はなし。

##### 【審議結果】

- クマゲラのものと推察される痕跡を多数確認しており、生息している可能性はあるが、クマゲラを直接確認できていないので、生息しているとは断言できない。
- クマゲラのものと推察される痕跡は、湛水域などのダム建設事業地内のほか、ダム建設事業地外にも多数確認しており、ダム周辺の広い範囲に生息していると思われる。ダム建設事業地はそのうち一部であり、影響はないと考えられる。
- クマゲラの生息状況の把握のため、今後も調査を継続するものとする。

#### ③ 移植済み植物のモニタリング調査（別紙－3参照）

##### <調査概要>

- 平成17年度に工事箇所に生育する希少種6種（エゾノチャルメルソウ、イトモ、ナベクラザゼンソウ、アイズスゲ、エビネ、イイヌママカゴ）を移植し、モニタリング調査を継続実施している。
- 平成29年度は、イトモの再移植を実施した。

##### <調査結果>

- エゾノチャルメルソウ、アイズスゲ、エビネ・・・良好である。
- ナベクラザゼンソウ・・・平成24年度まで個体数が減少傾向であったが、平成25年度以降は安定している。
- イイヌママカゴ・・・平成27年度まで個体数が減少傾向であったが、平成28年度以降は安定している。
- イトモ・・・平成17年度に移植したが、平成19年度に消失。平成29年度に再移植した。移植後の状況は良好である。

【審議結果】

- ・ 個体数が減少した種もあるが、近年は安定しており、移植後の状況は概ね良好であると考えられる。
- ・ 今後も調査を継続するものとする。

④ 希少猛禽類調査 (別紙-4 参照)

<調査概要>

- ・ 平成8年度に調査を開始し、平成10年度に「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」を設立し、鳥類の専門家の指導・助言を得ながら調査を継続実施している。

<調査結果>

- ・ イヌワシ・・・平成29年は巢内で巣材を確認した。しかし、繁殖は無かった。
- ・ クマタカ・・・平成29年は巢内でヒナ（1羽）を確認した。その後、巣立ちの確認はなかった。
- ・ その他の猛禽類・・・平成29年はハチクマ（1羽）、ハイタカ（2羽）のヒナを確認した。

【審議結果】

- ※「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」で審議しているため、当委員会では審議なし。

⑤ 魚類調査 (別紙-5 参照)

<調査概要>

- ・ 平成7年度、平成17年度～平成18年度、平成25年度～平成29年度に調査を実施。
- ・ 平成26年度からはダム事業による影響を定量的に把握するため、「釣りで親しまれている魚類」及び「成瀬川に多く生息する魚類」である6種（アユ、ヤマメ、イワナ類、ウグイ、エゾウグイ、カジカ）について、同一箇所、同一手法で年3回（春季、夏季、秋季）の調査を実施している。
- ・ 平成30年3月26日に転流工（河道切替）、平成30年度からは本体工事に着手するため、平成30年度以降は、H26～H29の調査結果を基に、ダム事業の影響を把握する。

<調査結果>

- ・ 調査対象6種の確認状況は下記となった。
  - 成瀬川下流部（田子内地区）・・・調査対象6種を全て確認
  - 成瀬川中流部（手倉地区）・・・アユを除く5種を確認
  - 成瀬川上流部（草の台地区）・・・エゾウグイ、ニッコウイワナ、カジカの3種を確認
- ・ 確認個体数は下記となった。
  - エゾウグイ・・・年度間の変動が大きく、確認個体数の多かった平成28年度は、特に成瀬川上流部（草の台地区）での確認が多い。
  - ウグイ・・・年度間の変動が大きく、特に成瀬川中流部（手倉地区）の変動が大きい。
  - アユ・・・年度間の変動は小さく、放流区間内の成瀬川下流部（田子内地区）の夏季調査でのみ確認されている。
  - ニッコウイワナ・・・年度間の変動はやや大きく、上流の地区ほど個体数が多い傾向である。
  - ヤマメ・・・年度間の変動は小さく、成瀬川上流部（草の台地区）では確認がなく、下流の地区ほど個体数が多い傾向である。
  - カジカ・・・年度間の変動はやや大きい。成瀬川下流部（田子内地区）の変動が大きい、中流部、上流部の変動は小さい。

【審議結果】

- ・平成30年3月26日に転流工（河道切替）、平成30年度からは本体工事に着手するため、平成30年度以降は、H26～H29の調査結果を基に、ダム事業の影響を把握することとなる。
- ・今年度までの調査で、成瀬川の魚類の生息状況を定量的に把握できたと考える。
- ・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を継続するものとする。

## **2. 平成30年度のモニタリング調査計画**

- ・平成30年度のモニタリング調査計画について審議した。
- ・平成30年度の調査項目は、平成29年度の調査項目を継続するほか、湛水区域内の移植対象種の追認調査を行う。

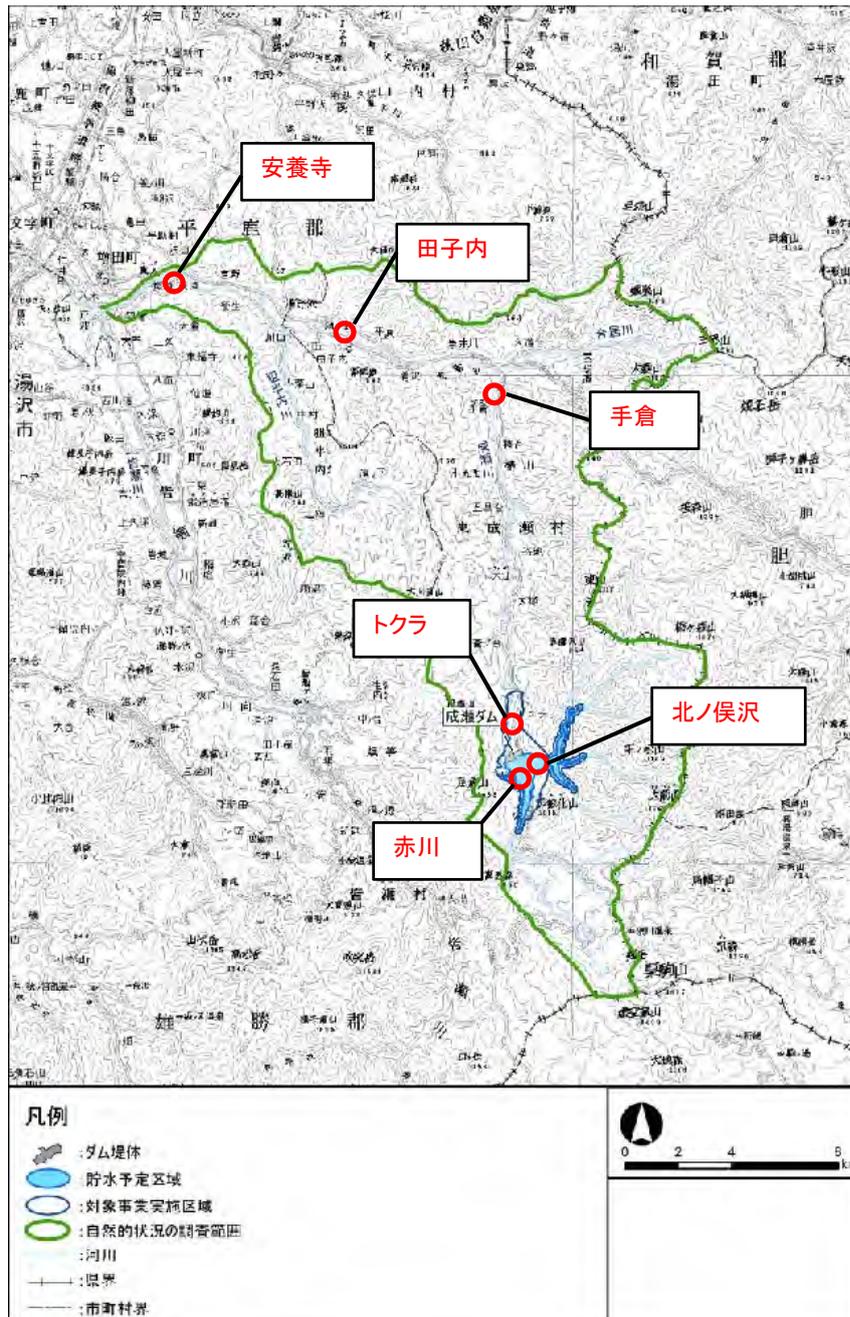
### **【審議結果】**

平成30年度のモニタリング調査計画について了承された。

以 上

①水質調査 参考資料

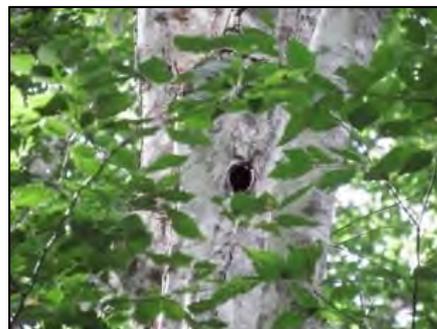
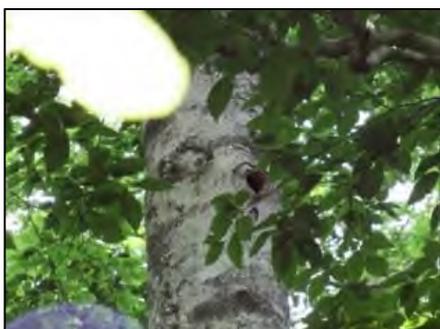
調査内容		
調査地点	調査項目	調査日
流入河川：赤川・北ノ俣沢 下流河川：トクラ地点・手倉地点・田子内地点・安養寺（真人橋）地点	流量、一般項目、生活環境項目、富栄養化項目	月1回 (赤川、北ノ俣沢：4月～11月)
	健康項目	年2回（5月、10月）



水質調査地点 位置図

## ②クマゲラ調査 参考資料

調査内容		
調査地点	調査項目	調査時期
事業区域周辺の3地区	<ul style="list-style-type: none"><li>・ラインセンサス法</li><li>・呼び込み法</li><li>・地区センサス法</li></ul>	春季 ・6月下旬～7月下旬 秋季 ・9月初旬～10月中旬

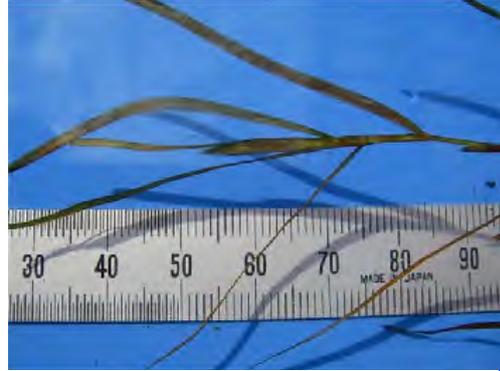


平成29年度調査にて確認した  
クマゲラの可能性のある痕跡

③移植済み植物のモニタリング調査 参考資料



エビネ



イトモ



ナベクラザゼンソウ



アイズスゲ



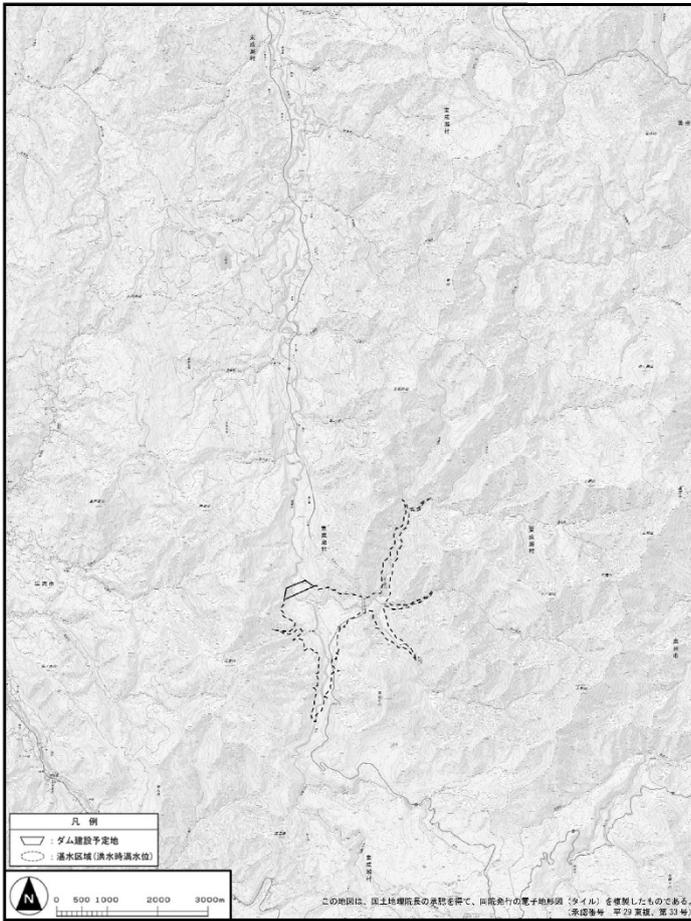
イイヌマムカゴ



エゾノチャルメルソウ

移植済み植物

④希少猛禽類調査 参考資料



希少猛禽類 調査範囲



イヌワシの巣の状況 (H29. 5. 20)



ハチクマの巣の状況 (H29. 8. 3)



クマタカの巣の状況 (H29. 7. 1)



ハイタカの巣の状況 (H29. 7. 15)

⑤魚類調査 参考資料

調査内容		
調査地点	調査方法	調査時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>田子内地区</li> <li>手倉地区</li> <li>草の台地区</li> </ul>	採捕調査 ・定置網 ・投網	春季 (6月上旬) 夏季 (8月下旬) 秋季 (10月上旬)



調査対象魚種



エゾウグイ



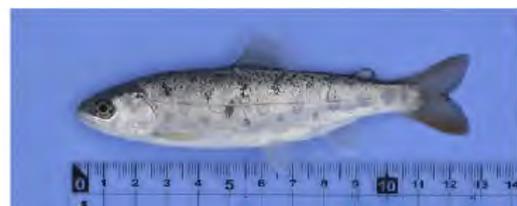
ウグイ



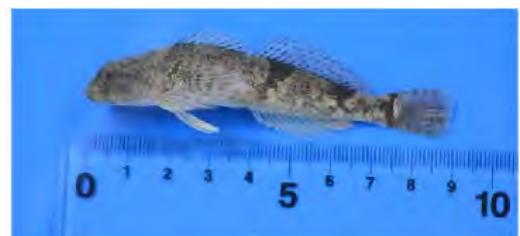
アユ



ニッコウイワナ



ヤマメ



カジカ